
君へ

季樹

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

君へ

【Nコード】

N4162A

【作者名】

季樹

【あらすじ】

ある朝突然いなくなってしまった君が残していったものは、とても大切な思い出だった。

まるで、誰にも迷惑をかけまいとしたかのように、それはとても静かな最後だった。

眠っているようなその横顔、今にも起きだしてきそうな姿に、信じられない気持ちで一杯だった。

12年という歳月は、君にとってどんな12年間だったのだろう。僕は君に何をしてあげられたかな。

こうやって、君の事を思い出すだけで涙が溢れてくるのは、それだけ長い間を一緒に過ごしたということなのだろう。

僕がオスがいいと言い張らなければ、

君が姉妹を乗り越えて近づいてこなかったら、

君を先約していた人がキャンセルをしていなかったら……

このどれか一つでも欠けていたら、君が我が家に来る事はなかったと、今でも思う。

周りの家の人からも、一目置かれていたほどの君。

本当に、君の声だけを信頼してくれていたね。

知ってる？みんな君の為に涙を流して泣いてくれていたんだよ。

今でも家に帰ると左を振り返ってしまう。

家の影から君が飛び出してくるような気がして、いつも見てしまうんだ。

夏に帰ったら、一緒に散歩に行こうって思ってた。でもそれも叶わなかった。

もっといっぱい遊んであげたかった。

いつまでもずっといてくれると思ってた。

永遠なんてないけれど、それでももう少しだけ、君はいてくれると思ってた。

君がいなくなってしまった事は悲しい。

だけど、向こうで思いっきり君が駆け回ることができるなら、行けるところまで、思う存分駆け回っていてくれるなら、僕はそれでいい。

（後書き）

我が家を守り続けてくれた愛犬に捧げるものです。
ふと、どうしてもどこかに記録をしておきたくて書きました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4162a/>

君へ

2011年1月26日15時31分発行